

平成27年8月  
第3号

# 東横連携だより LINK

## 地域とのつながりを大切に

**病院** 「生命の尊厳とキリスト教の愛の精神」を重んじ、  
**理念** 病める人を癒す、愛ある医療を目指します



## 6年が過ぎての変化

消化器病センター長 中嶋 孝司

東横病院を支えてくださる先生方、関係者の方々には日頃の暖かいご支援、ご指導に感謝申し上げます。

当院は、2008年6月に総合病院から診療科が限定した病院になり再出発しました。今年6月、7年目を迎えることとなりました。

この期間には種々の変化がありました。

院長が交代しました。昨年3月に舟木先生が定年退職され、4月に消化器病センター長でありました宮島先生が病院長に就任されました。舟木先生は新病院の基礎を築かれ、宮島先生は病院の体制・運営の更なる確立・安定に取り組んでいます。また、心臓病センター長、看護部長、事務部長、多数の職員が変わりました。法人内の異動、定年退職等により、開院当初から現在まで引き続き在職している職員の方が少なく感じられます。なれ親しんだ人が去るのは寂しいことではありますが、新たな人事は、組織を活性化しています。

診療科が増加しました。開院当初は3センター（心臓病センター、脳卒中センター、消化器病センター）と女性検診科でした。現在は、女性検診科は昨年4月から始まりました企業検診と統合して健康診断センターとなりました。今年4月からは生活習慣病センターが加わりま



した。健康寿命と平均寿命とには10歳の開きがあり、生活の質に重点が置かれる現在、健康寿命を延ばすことが重要課題となっております。疾病の早期発見を目的とした健診、重要臓器の動脈硬化性疾患に繋がる生活習慣病が診療に加わることは時代の要請に合致したこととも思われます。心臓病センターでは心臓血管外科が加わり、女性医師も担当する下肢静脈瘤外来が始まりました。

6年は「僅か」とも「もう」とも感じられる。今後も変化はあると思われますが、目指すは当院の基本指針の一つ「地域との連携を深め、地域医療、地域住民の健康と福祉を支援します」であります。現状に満足することなく、日進月歩の進歩を取り入れ、皆様、患者さんから選ばれる病院でありますよう努めます。尚一層のご指導、ご援助をお願い申し上げます。

# 各部門

## 生活習慣病センター

生活習慣病センター長 太田 明雄

平成 27 年 4 月より東横病院に生活習慣病センター（代謝・内分泌内科）を開設することになりました。

生活習慣病とは、食生活、運動習慣、ストレス、喫煙、飲酒等の生活習慣の乱れが糖尿病や脂質異常症、高血圧などの疾患を引き起こすことを言います。さらに腎不全や悪性腫瘍、認知症などさまざまな合併症を引き起こす危険性が高くなります。平成 24 年の厚生労働省 国民健康・栄養調査によると、「糖尿病が強く疑われる人」950 万人と「糖尿病の可能性を否定できない人」の 1,100 万人を合わせると、全国に 2,050 万人いると推定されています。しかも、糖尿病が疑われる人の約 4 割はほとんど治療を受けたことがない人たちです。また、メタボリックシンドロームの該当者と予備群は、計約 1,940 万人と推計され、成人男性のほぼ 2 人に 1 人、女性の 5 人に 1 人が該当者か予備群とみられています。この調査結果は非常に憂慮すべき内容です。東横病院の周辺は、高層マンションが立ち並び、人口はこの 10 年間で既に 15,000 人以上増えたと言われていますが、人口増加に伴い、この地域における生活習慣病の増加が懸念されます。そこで、近隣の先生方と連携して一人でも多くの生活習慣病や糖尿病の発症を未然に防ぎ、糖尿病合併症を阻止して行きたいという願いからこのセンターが開設されました。生活習慣病センターでは外来診療並びに必要に応じて入院治療を行います。糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症などの代謝・栄養疾患や、下垂体・甲状腺・



副甲状腺・副腎疾患・性腺の内分泌疾患の診断と治療および生活指導・管理を行っています。糖尿病診療につきましては、1 週間の糖尿病教育入院を行い、インスリン療法導入だけでなく、医師や糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師や薬剤師、管理栄養士、理学療法士で構成されたチーム医療で取り組み、独自の教育プログラムにより食事療法・運動療法を基礎に良好な血糖状態になるよう努めてまいります。原則として、ご紹介いただきました先生方に患者さんをお戻ししています。しかしながら、治療に難渋する患者さんには、当センターとの併診（例えば、3 ヶ月から半年に一度当センターを受診すること）により、ご紹介元の先生方とご一緒に糖尿病状態の把握や治療に共同であります。

近隣の先生方のご支援とご協力を賜り、生活習慣病センターの使命を遂行してまいりたいと思います。何卒よろしくお願ひいたします。

## 専門外来一覧

平成 27 年 4 月現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
消化器病センター						※セカンドオピニオン (9:00 ~ 11:00) 宮島 伸宜
心臓病センター		下肢静脈瘤外来（第 2・4 PM） 千葉 清、桜井 祐加 ※睡眠時無呼吸 (14:00 ~) 吉田 浩幸		※睡眠時無呼吸 (14:00 ~) 吉田 浩幸	心臓血管外科（第 2・4 PM） 本院医師（外来診療のみ） 睡眠時無呼吸（14:00 ~） ※関塚 宏光 ベースメーカー（PM） 徳丸 瞳	※禁煙外来 (AM)
脳卒中センター	※セカンドオピニオン (15:00 ~ 17:00) 植田 敏浩	ポツリヌス治療 (14:00 ~) 小野 元、野越 慎司	※脳血管内治療 (AM) 植田 敏浩	頭痛外来 (PM) 野越 慎司	物忘れ外来 (PM) 吉江 智秀	

（診療受付時間） AM 8:30 ~ 11:00 PM 13:30 ~ 16:00  
土曜日は第 2、4、5 の午前中のみです  
※…予約制

# の紹介

## 5階病棟

5階病棟師長 島澤 淳子

5階病棟は個室のみの病床です。全個室の病棟は聖マリアンナ医科大学系列病院の中で唯一当院のみです。急性期から回復期、終末期、検査、カテーテル治療、手術など多岐にわたる医療・看護を提供しております。患者さんから、「親切でアットホーム」というお声をいただきます。スタッフ一同、患者さんに満足していただける看護を提供できるようにこころがけております。

それでは、個室設備をご紹介します。間取りは、15床のうち1床は約26m<sup>2</sup>、14床は約12.5m<sup>2</sup>です。シャワー・トイレ・洗面所付き、LAN配線が設備され、電動ベッド、テレビ付き床頭台、冷蔵庫、テーブル、ソファが備えています。寝衣、タオル、生活用品（室内ばき、洗面用具、シャンプーリンス、ボディソープなど）も室料に含まれます。そして、15時にお茶お菓子をサービスいたします。気になる室料ですが、26m<sup>2</sup>室料 54,000円 12.5m<sup>2</sup>室料 21,600円。料金は高いと思われますが、生活用品が含まれており、一人の空間で周りに気を使わず、療養に専念できることが個室の良い点ではないでしょうか。



看護は、オレム看護理論を用いて看護過程を展開しております。セルフケア理論をもとに患者さんの年齢・病状・回復段階・退院に向けたアセスメントを行い患者さんのセルフケア能力を引き出し、回復を促進できるように看護を実施しています。

今年度、代謝内分泌内科、心臓血管外科の入院を扱うことになりました。さらに幅広い知識、技術をもって、ジェネラリストとなれるよう鍛錬しております。

病棟のスローガンは「各センターの医療が学べ、きめ細やかな温かい看護を提供します」と掲げ、スタッフ一丸となって患者サービスに努めております。

## 画像診断室

技術課長 五十嵐 隆幸

いつも当院に画像検査をご依頼いただき感謝申し上げます。

画像診断室は放射線科医師3名、CT・MR部門看護師1名（透視・血管撮影室は兼務）、診療放射線技師10名（男性7名・女性3名）、受付1名で業務をおこなっています。先生方からの紹介内容にそった検査をおこなえるよう放射線科医師と連携し検査施行しております。頭部MRの検査に関しましては、ルーチンにMRAも組み込んで撮像しております。

当院は特化した救急病院でもあり、救急に迅速に対応した検査をおこない治療にすすめる体制をとっております。撮影室の配置もワンフロアでそれぞれの撮影室とコミュニケーションがはかれる構造であり、一般撮影室→MR→CT→血管撮影室に迅速に移動できます。一例をあげますと、急性期脳梗塞に関しては、治療に短時間ですすめるよう、頭部MRは超急性期のシーケンスを組み、撮影時間も通常の半分以下で撮像が終了するようになっ



ております。

当部署の今後としましてはCT・MR装置に関しては宮島病院長も他院におとることがないよう、時代遅れにならないよう装置の更新をおこなっていく方針であります。技師の教育に関しては撮影技術や最新の知識に関して学ぶため常に院外の勉強会等に積極的に参加するとともに、勉強会の運営にも携わっておりります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 緊急のご紹介について

当院は救急指定病院として地域住民や地域医療に貢献すべく、各センターがホットラインを備え、救急隊や近隣の医療機関からの要請に対し 24 時間 365 日体制での的確な診断、迅速な治療を行うための体制を整えております。

**医療機関専用・各センターホットライン（医師直通）**  
**各センターの医師が直接対応いたします（24 時間）**

**脳卒中センター 080-5498-9536**

**心臓病センター 080-5498-9493**

**消化器病センター 080-5498-9516**

救急外来 連絡先

TEL : 044-722-2121 (代表)

救急外来 FAX

FAX: 044-722-1771 (救急外来)

## 通常の診療・検査予約

**TEL : 044-722-2216**  
(医療機関専用・連携室直通)

・まずお電話にてご希望日時の相談を賜り仮予約をお取りいたします

**FAX : 044-733-6658**  
(医療機関専用・連携室直通)

・仮予約後、紹介状（FAX 用）を FAX 送信してください

・本予約後、予約票を返送いたします  
※原則 30 分以内に返送いたします

### 電話・FAX 対応時間

平日 8:30 ~ 16:30  
土曜日 (第 2,4,5) 8:30 ~ 12:00

※FAX は 24 時間稼働しておりますが、時間外の FAX 収受対応は、翌日又は休診日明けとなりますので、ご了承くださいます  
ようお願い申し上げます。

## 「地域連携の会」について

医療支援・連携室課長 村松 隆志

例年行われている「地域連携の会」を平成 27 年 6 月 11 日（木）に開催しました。

「地域連携の会」は今年で 5 回目の開催となります。昨年同様、日吉駅から徒歩 1 分の「クイーンアリス ガーデンテラス日吉」において、日頃より患者紹介等で医療連携を行っている近隣の医療機関の先生、地域医療のご担当者、39 施設 68 名の皆様にご参加いただきました。宮島病院長の挨拶に続き、生活習慣病センターの太田センター長、心臓病センターの田中副センター長、脳卒中センターの植田センター長による最近のトピックスの紹介が行われました。引き続き行われた懇親会では、普段は紹介状や電話のやり取りで直接、顔を合わせる機会の少ない近隣の医療機関の先生方から、ご意見をいただき、有意義な情報交換が行われました。懇親会後半には東横

病院各センターの医師紹介もあり、中嶋センター長から今後も顔の見える関係を築いていきたいとの挨拶がありました。病院の基本方針にもあるように地域との連携を深め、地域医療、地域住民の健康と福祉を支援することを目標に、今後も「地域連携の会」などの企画を通じて地域の医療機関との連携をより強化していきたいと思います。



### 編集後記

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。新年度を迎えたと思えば、気づけばもう夏になってしましました。今年度には新しく生活習慣病センターが開設され今号ではご挨拶を掲載させていただいております。また当院の電子カルテシステム入れ替えの際にはご協力いただきまして誠に有難うございました。今後も当院の紹介を行ってまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。（T.K）

平成 27 年 8 月 3 号発行 発行元：医療支援・連携室連携便り編集委員

聖マリアンナ医科大学東横病院  
〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町 3-435  
TEL: 044-722-2121 (代表)  
TEL: 044-722-2216 (医療機関向け・連携室直通)  
FAX: 044-733-6658 (連携室直通)

東横病院

検索